

12/26 朝

コロナ医療最前線 思い巡らして

看護師

(北海道 73)

千葉県内の病院が、厚生労働省に相談せず、新型コロナの自宅療養者90人余に抗ウイルス薬「アビガン」を処方したのは不適切だったとして、今月、謝罪しました。アビガンの処方は、厚労省が入院患者に限つて認めているからです。

しかし、病院が処方した8～9月は、コロナ感染が「災害級の状況」と言っていた時期。入院できず不安と恐怖を抱えていた患者にとってアビガンは救いだつたと思います。そんな患者に寄り添った医師たちが、会見で頭を下げるねばならないな

んで。悲しみと憤りを覚えました。

1年前の今頃、看護師の娘はコロナ患者と向き合つていきました。家族に感染させないように職場はホテルを用意してくれましたが、食事は「パン」「牛乳」などで貰うしかありません。「せめてほつとできる温かい食事の提供を」と私は行政や看護協会に訴えましたが、叶いませんでした。娘は1ヶ月余の激務に耐え、今ようやく家族で「1年前は本当にきつかったね」と話せるように。今年は小さなクリスマスツリーを飾りました。

コロナ治療の最前線で踏ん張っている医療者の心情に思いを巡らせてほじいとっています。